

観光戦略に農泊

読谷山 岡市長 経済効果十人との絆

延岡市長 誘客事業で加速 11月、台湾の高校生が来延

台湾の高校が11月6～8日、修学旅行の一環で延岡市の農家に宿泊（農泊）する。岡市長が主導して修学旅行を受け入れるのは初めて。読谷山洋司市長は「経済効果としてだけでなく、人と人との絆も育み次世代につなげたい」と話している。

「農泊の受け入れ態勢をもっと強化し、自然豊かで充実したアウトドアを『ウリ』にして積極的に

市観光戦略課によると、市は昨年度から農泊の受け入れ強化を始め、プロモーションも本格的に始めたという。今年度の6月補正予算で「延岡に新たな流れをつくる誘客事業（486・4万円）を計上し、さらにこの取り組みを加速させた。

都圏や海外の旅行会社に売り込み、修学旅行を受け持つ台湾の会社が興味を持って実現した。同課によると、台湾の修学旅行は農泊が主流という。来延するのは、台湾新北市の南山高等学校2年（16～17歳）の31人と教諭2人。民泊経営者ら

一行は6日夕に延岡市役所に訪れ、ホストファミリーと対面。翌7日の午前中は日向高校で生徒と交流、午後は延岡に戻り今山大師空海堂で茶道体験する。最終日の8日は城山で同協議会主催のお別れ会に参加し、高千穂に向かう。宿泊する各家庭では農作業も体験する予定。

安藤会長は「市の取り組みを歓迎している。タイの留学生などは受け入れたことがあるが、台湾は初めてで楽しみ。延岡の良さをPRして、宿泊した生徒たちが発信者になってもらえたらうれしい」と当日を心待ちにした様子。

宮崎―台湾には空の直行便が存在するため、延岡市は今後も台湾をターゲットに誘客のプロモーションを仕掛けていきたい考え。市観光戦略課は

それが結果につながった形。「1人4千円を補助する」という同事業を首

ソリウム協議会（安藤重徳会長、17件）の8家庭が農泊を受け入れる。

展開していきたい」と話している。